



歯科医師2名、歯科衛生士6名、歯科助手4名、受付1名の当院。開業から80周年を迎えた今年、地域に生かされ、地域に生きることをますます実感しながら予防歯科に力を入れている。

うち流！ 地域へのアプローチ

地域の人々の健康を守っていくために、
医院で地域に働きかけている取り組みをご紹介します。

File.9 **こいし歯科**(大阪府開業)
文●小石 剛 院長

落語を通じ、地域と共生する歯科医院に

当院では年に6回、奇数月に大学の落語研究会やアマチュア落語家による落語会「手水寄席」を行っています。今年で初演から4周年を迎えました。診療所前に立てたカラフルなのぼり、待合室に手作りした舞台、天井から吊り下げられたちょうちん、出演者の名前を書いた札……。医院が寄席小屋に様変わりするこの日、狭い観客席には高齢者や夫婦連れ、親子がつめかけてくださいます。

この寄席では、最後に私がお口の健康について健康講話を行うのが常です。講話は毎回新作。「イチローは1日何回歯磨きをする?」「歯垢0.1gにバイ菌は何匹?」など、口と全身の健康についてやさしく楽しく伝えるよう努めています。歯

科に特化せず、鍼灸院と一緒に姿勢や態癖をテーマに話したこともあります。落語でほぐれた観客からは笑みがこぼれ、医院はとてもしつこい雰囲気に包まれます。

実は健康講話に関しては、始めたのは8年前から。「歯科の敷居を低くし、予防の重要性を伝えたい」との思いで始めてみました。しかし話の切り口が病気のことばかりだったせいか、参加者は少なく、リピーターもほぼいませんでした。

転機は、当院のある池田市に「落語みゅ〜じあむ」ができた際、近所の商店街が落語で地域を盛り上げるイベント「おたなKAIWAI」を立ち上げたことでした。そこで、「寄席と健康講話を合体させればおもしろいかも」と思ったの

です。このアイデアは大当たり。今では毎回立ち見が出るほどの盛況ぶりです。準備や片づけを観客が手伝ってくれるようにもなりました。こうした医院と患者さんというだけでない人のつながりが生まれると、地域で生かされ生きるという、「共生」の大切さを身に染みて感じます。その共生の中に歯科医院が存在しているということを知っていただき、また身近に感じてくれればと思います。

当院の取り組みは落語や健康講話だけではなく、駅前のゴミ拾いや助産師・保健師との子育て講座等にも及んでいます。今後も地域のつながりを生かし、親子ともに予防歯科のさまざまな情報を伝えられる医院づくりを続けていきたいです。



健康講話。落語でほぐれ、場に慣れた観客は、講話にも積極的に参加してくれるようになった。

手水寄席のようす。狭い会場だが、それだけに嗺のおもしろさはダイナミック。待合室も、この日は笑いに包まれる。